



目指そう会員数1千名!

「一会員一人の新会員獲得」

横須賀水交會会長 土井克彦



新年度を迎え、我が横須賀水交會も6月1日(金)実施予定の「平成24年度定期総会」に向け、活動計画の策定、役員体制の構築等に鋭意努めている処であります。

本会の会長職を拝命して1年、会員皆様のご理解と役員諸兄のご支援により、何とかその職を勤めて参りました。しかしながらその実態は、「海上自衛隊等の施策・活動に対する協力支援及び地域社会への寄与」

等の大義名分の下、活動計画に定められた諸行事を大過無くこなすことにかまけて、「横須賀水交會」更に言えば「水交會」という組織が持つ本質的な問題点への取り組みをないがしろにして来た或いは目をつむって来た感が拭えないのであります。

水交會の本質的問題点(課題)とは、言わずもがな「会勢衰微による組織存続の危機の克服」であります。現在の水交會員総数は約6千名であります。旧海軍経験者の減少等に伴い年を追って減衰し、本部の試算では数年後には会員数約4千名程度まで落ち込んで、やっと安定期に入るとの見積りがあります。この実情に鑑み、現在本部においては次の

発行 平成24年4月24日
編集 横須賀水交會事務局

ケーススタディーが成されていると聞き及びます。

一つは、現状を有りの儘に受け止め、将来的には会員数4千名規模の水交會活動の在り方を追求する案で、所謂「縮小均衡論」でのアプローチです。今一つは、現在の活動内容を維持するに必要な会員数規模は8千名と試算されることから、これを当面の目標として会勢拡大を目指す案、所謂「拡大均衡論」でのアプローチです。

確かに昨今の日本社会の風潮が「優雅なる下山のやり方を求める」下山意識に包まれ、前者の縮小均衡論に傾くことも理解はできますが、少なくとも水交會に在っては瘦せ我慢をしても「坂の上の雲を目指す」登山意識で拡大均衡論を迫らすべきでしょう。

振り返って横須賀水交會の会員数の推移をみますと、一昨年度末691名、昨年度末713名となっており、微増とは言えご他聞に洩れず極めて厳しい情勢にあります。

横須賀水交會主要行事予定

本年9月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いします。

なお、最新情報は横須賀水交會ホームページでご確認下さい。

1 練習艦隊入港歓迎行事

(1) 期日 5月9日(水)

(2) 場所 吉倉岸壁

2 馬門山海軍墓地墓前祭

(1) 期日 5月19日(土)

(2) 場所 馬門山海軍墓地

3 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(日)

(2) 場所 ヴェルニー公園

4 24年度総会・講演・懇親会

(1) 期日 6月1日(金)

(2) 場所 よこすか平安閣

5 第22回ゴルフ大会

(1) 期日 6月8日(金)

(2) 場所 エンゼルCC

6 靖国神社月例参拝

6月21日(木) (詳細HPで)

7 夏期防衛講座

8月中旬頃(細部未定)

8 部隊研修

8月下旬頃(細部未定)

しかしながら役員諸兄の危機意識から生まれた勧誘努力で、53名の新入会員数を獲得しております。本年度はこの活動を組織立った形態として取り組み、「目指そう会員数1千名！」をキャッチフレーズに「1会員1人の会員獲得」運動を展開したいと思えます。

無論この運動を単なる掛け声倒れに終わらせないための施策は打って参る所存であります。その鍵は、会員個々の参加意識の高揚を図るための「本会活動の魅力化」及び会員個々の負担を軽減できる「会員による入会促進手段の簡素化」に有ると考えます。前者について業計レベルでは包括的表現に留めておりますが、部隊研修の在り方等実施計画の段階で十分な知恵を出してその具現化を図る所存であります。後者については会員獲得手段そのものですので、その具体策をここに詳述します。

【会員による入会促進手段】

入会希望者を見出された会員の方は、本部宛てに以下のPCメールを送信下さい。

(あて先：水交会本部)

suikoukai@suikoukai-jp.com

(CC：横須賀水交会事務局)

y-suikoukai2@suikoukai.daa.jp

(本文)

水交会本部 吉岡 様

1 入会希望者住所又は職場住所

(入会案内送付先)

2 入会希望者氏名(要すれば年齢)

3 要すれば入会希望者の職業

4 推薦人(入会を勧誘した会員名)

上記を受信した本部担当の吉岡さんから、入会希望者宛てに入会案内資料が送付されます。

なお、PCをお持ちで無い会員の方は、最寄りの常務幹事へ上記情報をお知らせ下さい。当該常務幹事が処置します。

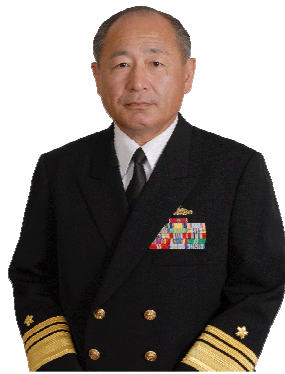
会勢挽回の特効薬は有りません。

会員全員で危機意識を共有し、地味で厳しい課題ではありますが、「先ず權より始めヨ！」です。これまでの諸先輩の努力により、地域における横須賀水交会のステータスは間違い無く向上して来ております。我々はその遺産を食い潰すこと無く、更なる発展を目指そうではありません。

ませんか！会員個々の健闘とご協力を期待しております。

「自衛艦隊司令官挨拶」

海将 河野 克俊



横須賀水交会の皆様には、横須賀地区の部隊や機関をはじめとする海上自衛隊の諸活動に対して平素から暖かいご支援を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、近年、国際的な安全保障環境は大きく変化し、伝統的な国家間の問題のみならず、新たな脅威や多様な事態など様々な課題に直面しています。特に、北朝鮮を巡っては、弾道ミサイルや核開発の問題のみならず、金正日総書記死去に伴う、金正恩体制への移行など不安定な情勢下にあります。また中国は、空

母の建造に見られるように国防費の増大と装備の近代化を背景に、艦艇の活動や海洋資源開発を活性化させているのは、ご承知のとおりです。

他方、ソマリア沖では、海賊行為が依然として続発し、その方法も巧妙化・広域化しており、海洋の秩序に対する重大な脅威となっております。また、ホルムズ海峡についても、イランの核開発問題を巡って予断を許さない情勢が継続しています。

このような情勢の下、自衛艦隊は従来からの任務である我が国周辺海域の警戒監視を着実に実施するとともに、平成21年からソマリア沖の海賊行為への対処行動に従事しています。艦艇部隊の通算護衛回数は342回2千583隻を超え、航空部隊の任務飛行も650回を超えています(平成24年3月26日現在)。これらの活動は、海洋国家としての我が国の国益を守り、我が国が国際的な責任を果たす一助になっていると確信しています。また昨年は、ジブチに航空任務部隊の活動拠点を開設、本格運用を開始し、より一層効果的、効率的な任務の遂

行が可能となりました。

そのほか、昨年は東日本大震災が生起し、自衛隊として初の統合任務部隊が編成され、自衛艦隊は海災部隊の中核としてその一翼を担い、全力で捜索・救助、生活支援等の活動に従事しました。国民の皆様からも大きな励ましを頂き、自衛隊に対するご理解も深めて頂いたものと確信しております。

海上自衛隊は、海上警備隊の発足から数え今年で60年を迎えます。

大きく変貌する安全保障環境下にあって、自衛隊の本来任務に加え、活動機会は益々増大する一方で、

が、自衛艦隊の根幹が、「精強・即応」であることに変わりありません。

連綿と引き継いできた「精強と即応」があつたからこそ、何時如何なる任務が与えられても、我が国の防衛及び警備の中核部隊として確固たる自信と誇りをもって、整齐と任務の遂行に邁進することができました。

一昨年、新たな「防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」が策定され、「動的防衛力」がその主眼とされました。厳しい財政事情の下、

変化する環境に適切に対応するためには、自衛艦隊により一層の即応性、精強性及び柔軟性が求められていることは明らかです。そのためには、現在推進している「海上自衛隊

根本的革新」の趣旨に基づき、本質を見失うことなく、守るべき伝統はしっかりと継承していく一方で、柔軟な発想と勇気をもって、変えるべきものは大胆に変えていくことが

必要です。約2万5千人の隊員全ての力を結集し、各級指揮官自らが先頭に立って根本的革新を進めつつ、

「即応性の高い精強な自衛艦隊」を築いて行きたいと考えています。

自衛艦隊は、本年も、「国土の防衛」と「海上交通の保護」が我々に

負託された最大の使命であるという認識の下、他自衛隊はもとより米

海軍第7艦隊と緊密に連携し、精強・即応をもって任務の完遂に努め、

全隊員一丸となって皆様の負託に応えていく所存です。今後とも一層

のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、横須賀水交会の皆様方のご健勝とご多幸を並びに横須賀水交会の更なるご発展

を祈念し、挨拶とさせていただきます。

（幹事投稿）

「米国のアジア太平洋優先戦略と我が国の対応」

幹事・元佐総監 加藤保

1 はじめに

第1次世界大戦前に、米国の高官がドイツ皇帝に、「ドイツが主戦的な傾向を排し、平和的な発展に徹すれば、世界一流の強国として存在し、

繁栄を続けることができる。だがそうでなければ、ドイツは英仏等からの攻撃を受け興国の大業も根底から崩

されてしまうであろう」と告げたそうであるが、ドイツは戦争に突入し、

ドイツ帝国は崩壊した。同高官は、当時外務官僚であつた吉田元首相に

「日本はいたがために戦争に突入し、近代日本の興隆発展を台無しにして

しまうべきではない。自重して平和を維持し、冷静に国運の隆盛に専念

すべきである」と告げたそうであるが、日本は、やはり戦争に突入し、

惨憺たる敗戦を迎えた。

現代に置き換えると、中国はこれらの歴史の教訓から学び好戦的な傾

向を排し、世界の超一流国家として平和的に発展していくのである

うか。それともドイツ帝国や日本帝国と同じ道を歩むのか。

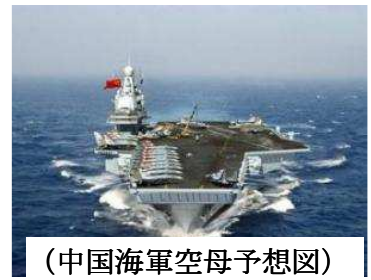
この場合、日本の選択肢は3つある。

① 中国側につく。この場合中国が勝てば日本は中国の属国となり、負ければ亡国となる。これは選択できない。

② 中立。この場合勝った国から協力しなかったことを理由に難題を押し付けられ衰退することになる。これも選択できない。

③ 米国側につく。米国が勝てば今のままの繁栄、仮に負けたとしても大儀を掲げて戦ったという誇りは残る。

結局のところ日本には、日米安保体制を堅持して、米国と歩み続ける以外の選択肢はないのである。そこで米国の中国への対応を検証し、日本はどう対処すべきか少し考えてみたい。



(中国海軍空母予想図)

2 米国の対応

クリントン国務長官は、フォーリン・ポリシー誌への寄稿の中で、「繁栄する米国は中国の利益になり、繁栄する中国は米国の利益になる。両国は対立より協力からはるかに多くを得られる」或いは「極めて重要なこととして、それぞれの国際的な責任と義務を果たせるかどうかは、米中両国次第である」と述べ、グローバル・パートナーとして気候変動、国際テロ或いは金融危機などに協力して対処しようと呼びかけている。その反面、中国が核心的利益と位置付ける南シナ海に関して「戦略面では南シナ海の航行の自由の防衛が重要である」ときちんと主張し、中国が他国の正当な権益や安全保障を脅かすこと、或いは中国が他国を犠牲にして影響力の増大や軍事・経済面での成長を追求することに警戒感も示している。

いて、これまで欧州や中東に傾きがちだった米国の外交をアジア太平洋最優先へと戦略転換した。さらに米国は太平洋国家として日本などの同盟国や友好国と連携しながら米国が主導する形でアジア太平洋地域の秩序形成を図るとの考えも示している。将来的には、豪州北部ダーク・ウインに2千5百名規模の米海兵隊を駐留させる方針であり、また財政再建に伴う国防費の大幅な削減の懸念があるなか、同大統領は「アジア太平洋地域の防衛予算は削減しない」と明言している。そして日米同盟は「地域の安全保障の礎石であり続ける」とも述べている。



(海上自衛隊演習に参加した日米艦艇)

3 日本の対応

「米国のアジア太平洋最優先への戦略転換は、同盟国日本への協力要

求が大きくなることを意味する」とよく言われる。筆者はこの言葉には違和感を覚える。米国が太平洋国家として同盟国日本と連携しながら米国が主導する形でアジア太平洋地域の秩序形成を図るということは、裏を返せば、中国が日本の正当な権益や安全保障に脅威を与えること或いは日本を犠牲にしての影響力の増大や軍事・経済面での成長を追求することを未然に防ごうということであろう。そうであるならば「日本は米国の新戦略に協力するというのではなく、アジア太平洋地域の秩序形成に自ら積極的に関与していくべきある」と言うのが筆者の意見である。

このように新しい対応が求められている日本が抱える安全保障上の問題点を考えてみたい。

(1) 防衛力の再構築

新大綱は、「防衛力の存在自体に抑止効果を重視した従来の『基盤的防衛力構想』によることなく、防衛力の役割を能動的に果たし得る動的防衛力を構築する」と明記している。

しかし新大綱別表を見る限り、何の変化もなく、基盤的防衛力を動的防衛力と名前だけを変えたものとな

っている。空母を建造し、東・南シナ海だけでなく西太平洋への派遣を目指している中国軍に対して、米国、日本、韓国及び豪州等が連携して同海域での対中包囲網を築くには、同海域における確固たる軍事的な裏付けが必要なことはいうまでもない。このため米国国防総省は『統合エアシーバトル構想』の具体化を急いでいる。日本も冷戦時代の防衛力整備構想とはきっぱりと決別し、米国等とともにアジア太平洋地域の秩序形成に貢献することが可能となるような海空戦力に重点志向された防衛力を再構築することが求められている。

(2) 我が国防衛のための最低限の

防衛予算の確保

平成24年度予算における防衛関係費は前年度比0.4%減で10年連続減少となっている。この減少傾向は、各中期防の経費総額(次表)を見ると良く理解できる。23中期防では、経費総額が17中期防に比較して1千5百億円減少しているが、人件糧食費は減少することなく防衛予算の減少は艦艇や航空機及び燃料・弾薬等の調達費の減少となる。

この調達費の減少の具体的な影響

中期防衛力整備計画
経費の推移

中期防	金額(億円)
13 中防	25兆1千6百
17 中防 (20 見直)	24兆2千4百 (6千減額)
23 中防	23兆4千9百

最新護衛艦「あきづき」
(5,000トン)



部隊の規模を維持するため8隻の護衛艦(ゆき型4隻及びびきり型4隻)

を艦艇(下表)で見ると、23中期防最終年度に建造が予定されている27DDが就役する平成31年度までに14隻の汎用型護衛艦(DD)が除籍時期を迎える。本来であれば、この間に14隻の汎用型護衛艦が就役するはずであるが、艦艇建造予算が確保できないために就役予定は6隻に留まり、新大綱別表に定める護衛艦

の艦齢延伸で対応している。従来海上自衛隊は艦艇の代替更新により、防衛力の質を維持してきたのであり、延命措置による防衛所要欠落補充により我が国の防衛力に悪影響が出るのが不安である。

(護衛艦の就役予定)

年度	就役護衛艦
23	DD「あきづき」
24	DD「てるづき」
25	21DD×2
26	22DDH×1
28	24DDH×1
30	26DD×1
31	27DD×1

(注) 21DD 2隻は「あきづき型」、22及び24DDHは「しらね」「くらま」後継艦、26及び27DDは新型、23中防は24DDH1隻及び27DD各1隻の計3隻を建造予定と26及び27DD各1隻の計3隻を建造予定

日本周辺諸国をみると、中国、韓国、北朝鮮、ロシアいずれの国も国防費を毎年増加させていることがわかる。このような安全保障環境下にあつて日本だけが防衛関係費を毎年減少させている危険性を喚起したい。危険性は二つある。その一つは、日本は安全保障に対する関心が低いのではないかという誤解を周辺諸国に与えることである。当然米国にも誤

解を与えぬ努力が重要であるということとは言うまでもない。他の一つは、新大綱に定められている防衛力さえも維持できなくなることである。当然アジア太平洋地域の秩序形成に貢献する海空戦力に重点志向された防衛力の構築は夢物語となる。所要の防衛力を構築するには、所要の装備品の調達、部隊運用や教育訓練に必要な燃料・弾薬等の確保するための予算の裏付けが必要であるということである。

(3) 抑止力と国家の危機管理

防衛力による抑止には、存在自体による抑止と事態が生起すれば必ず対応してくるという思いから発生する対処による抑止の両面がある。防衛力はこの両面を兼ね備えていないければならない。存在自体による抑止効果がないということは防衛力自体が不十分ということであり、対処による効果がないということは防衛力を運用する人々が一流でないということである。だからこそ海上自衛隊は、艦艇や航空機の近代化に努力するとともに、「精強・即応」を旗頭に訓練に励み高い運用能力を維持してきたのである。

しかしながら、抑止とは、一般的に、本来相手に耐えがたい損害を与えるという威嚇によって攻撃を思いとどまらせることである。平素の情報収集や警戒監視等により、強い防衛の意思と高い防衛能力を明示することによる抑止効果を期待するのであれば政府にもそれなりの覚悟が求められる。尖閣諸島付近での中国漁船船長逮捕事案対処で理解に苦しむような方法で同船長を釈放するようでは、足元を見られ、抑止効果などは望めるものではない。平素からの警戒・監視活動も国家としての適切な危機管理と相まって初めて効果が期待できるものとなる。

4 最後に

東日本大震災に対する米軍の支援活動の動きは早く「Operation Tomodachi」と

「友」が描かれたワッペンを右腕に付け献身的に支援に従事する米軍人の姿が、日本人の心に日



米安全保障体制の重要性を最認識させるとともに日米同盟は盤石である

と感じさせたのは事実であろう。しかしながら日米同盟は本当に盤石であるか。

日本を取り巻く国際安全保障環境は厳しさを増す一方である。年金問題などの国内問題も重要であるが、国内問題では少し辛抱をして、日本の将来のため安全保障問題に真剣に取り組む時はすでにきており、手遅れにならない前に対処することが強く求められている。

米国からボールは投げられている。日本がどの程度の覚悟をもってボールを投げ返すことができるかが日本の将来を決める鍵である。

「横須賀市議会だより」

副議長・幹事 木下 憲司



2月16日から3月27日の間、平成24年第1回横須賀市議会定例会が開会されました。例年第1回定例会は予算審議が主体となりますが、今回

はその他にもいくつかの特記すべき事項がありましたので、以下述べてみます。

まず、横須賀市自治基本条例案ですが、定例会最終日の本会議において継続審議と議決しました。すでに皆様にはご案内のとおり、この条例案には根本的な部分で問題があり、我々党派自民党としては当初から条例制定反対の立場を貫きました。この条例案に対しては、各党派・各議員それぞれの立場で賛成、反対の意見を表明しましたが、結果として継続審議となりました。継続審議となった大きな理由は、同条例案の重要部分である住民投票条項が検討されていないため、不透明であり、審議の対象となり得ないということです。

当面の結論として、この条例案は「問題の先送り」となされたわけですが、今後時期は未定ですが、再び市長から同条例案は議会へ提出されることとなりますので、その時には然るべく決着をつけたいと思います。

なお、この件でつくづく感じましたが、地方政治にイデオロギーを持ち込むことが、いかに愚策で、不毛の議論を生じ、無用の対立をおおる

結果となるかを体感した次第です。

次に東日本大震災関連のガレキ処理についてですが、同じく本会議において「災害廃棄物の実効的処理の促進を求める意見書」を賛成多数で可決しました。東北被災地の災害廃棄物処理が進んでいないことは皆さんご承知のとおりです。また、神奈川県が昨年末に「かながわ環境整備センター」(横須賀市芦名地区)への災害廃棄物の受け入れ方針を表明し、地元に対する説明を行うなどしたところですが、現時点では地域住民の理解を得るには至っていません。

このような状況を打開して欲しいとの思いから、我々自民党派が提案して、国(衆参議長、総理大臣、関係大臣)への意見書を議決した次第です。意見書の要旨は①災害廃棄物の処理は被災地復興の第一義的課題であり、早急にその処理を促進すること②放射性物質を含む災害廃棄物の受け入れについて、住民の不安解消に努めること③災害廃棄物処理の技術的指針の明確化及び経費の国負担④風評被害の防止及びその場合の補償を求めるものです。

東日本大震災における災害廃棄物

の早期処理は国民的課題であり、困ったときはお互い様の気持ちが大事故だと思えます。この問題が早く解決して、被災地の復興が一日も早く進むことを願っています。

平成24年新年賀詞交歓会の開催

横須賀地区の防衛関係者にとりましては新年の幕開け行事ともなっております「防衛諸団体共催新年賀詞交歓会」が、1月14日(土)横須賀商工会議所において盛大に執り行われました。

この賀詞交歓会は、防衛関連9団体(横須賀防衛協会、横須賀水交会、隊友会横須賀支部、財団法人三笠保存会、横須賀曹友会、横須賀自衛官募集相談員会、桜遊会、三浦半島地区自衛隊父兄会及び横須賀海交会)が近傍に所在する自衛隊主要幹部や前任伍長等を招いて新春の賀詞を交歓するとともに、陸・海・空の自衛官を激励し、あわせて、会員相互の親睦を図ることを目的に例年実施されているもので、当日は天気にも恵まれ約300名の方々が集まりました。

開会に先立ち参加者全員で東日本大震災の犠牲者に黙とうを奉げご冥福をお祈りした後、



国歌斉唱、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協会会長からの挨拶、来賓を代表して河村横須賀地方総監と吉田横須賀市長の祝辞、来賓紹介、祝電披露、鏡割りの順で式は進行いたしました。

河村横須賀地方総監からは、「今年が昨年のように自衛隊が活躍する年にならないことを祈ってはい



意が述べられました。吉田横須賀市長の祝辞では「皆様

とともに横須賀市を防衛省・自衛隊及び米海軍と共存共栄する拠点都市として発展させていきたい。」と



今年の抱負を述べられた後、全ての協賛団体の名称を正確かつ滞りなく発声された際には参会者から驚きの声と大きな拍手が起きました。



引き続き来賓紹介においては小泉衆議院議員から力強い挨拶をい

ただくとともに、参加された県会議員、市会議員の皆様には全員壇上において自己紹介していただきましたが、多数の先生方がお集まりにな

ったため壇上で譲り合いの場面が生起するなど本会の盛況ぶりが窺がわれる来賓紹介となりました。引き続き鏡割りでは各界を代表する9名の方々が、会場の声援を受

けて新潟県新発田市の菊水酒造会長・高澤英介氏(横須賀水交會会員)から寄贈頂いた「菊水」と、海軍に因んだ「元帥」の4斗樽を見事にたたき割り、



会場は最高の盛り上がるの時を迎えました。その後、田中防大幹事の発声により乾杯が行われ、会場内のあちらこちらで陸海空の現役自衛官、OB会員、各界代表者等が和気藹々と懇談する姿が見受けられ十分に親睦を図ることができました。

楽しい時間は早く過ぎると言われますが、散会後も話し足りなかつた一部の参加者は会場の勢いを保ったまま市中へ繰り出し横須賀市の活性化に大いに貢献することになったようです。当然ながら横須賀水交會のメンバーも土井会長を先

頭に市内某所にて気炎を上げたことは読者の皆様ご想像のとおりです。(永田幹事 記)

第11次海賊対処部隊出港・見送り

海賊対処法に基づき、第1護衛隊司令・山本克也1佐を指揮官(司令部約30人)に「むらさめ」(艦長・松野征治2佐、乗組員約170人)と「はるさめ」(艦長・佐藤誠2佐、乗組員約180人)の2隻がソマリア沖・アデン湾へ、派遣された。

1月21日(土)、両艦は横須賀を出港し、第10次隊の「たかなみ」及び「おおなみ」と現地で交代する予定である。両艦にとって海賊対処は2度目の派遣である。

河村横須賀地方総監執行の出港行事は、田中防衛大臣訓示、河野自衛艦隊司令官訓示、花束贈呈、第1護衛隊司令あいさつ等、盛大に行われた。

佐藤参議院議員、宇都参議院議員、杉本海上幕僚長、横須賀市長、米海軍7艦隊参謀長、海上保安庁警備救難監、船主協会代表、各級指揮官・隊員、家族、横須賀水交會などの防



衛団体、地元関係者などが多数の旗や激励幕を掲げるなか、出港の帽振れに合わせて一斉に旗が振られ大きな声援が飛び、心のこもった見送りが行われた。

1月21日までの海賊対処護衛実績は計320回、延べ2千4百隻に上るとのこと、この間一件の海賊被害も無く、派遣された部隊は、関係各国から高く評価されると共に、護



衛された船舶からは、格別の感謝をされ、立派な成果を挙げている。

万里の波濤を越えて、はるかなるアフリカソマリア沖の厳しい環境下での長期間の活動には感謝の念が深まる。海上交通の安全のため、海洋使用の自由、国益のため長期間にわたり任務を遂行する部隊に対し、深甚の敬意を払います。

任務達成と武運長久を祈る。
(本多副会長 記)

第10次隊「たかなみ」

「おおなみ」帰国・出迎え

3月12日(月)、ソマリア沖アデン湾において、第10次海賊対処活動に従事していた部隊(指揮官・第6護衛隊司令 水間貴勝1佐)の護衛艦「たかなみ」(艦長・米丸祥一2佐)と「おおなみ」(艦長・吉野敦2佐)が任務を終えて、横須賀に入港、帰国した。昨年10月出港、11月上旬から、現地で護衛活動を行い、2月15日任務を終了し、「むらさめ」及び「はるさめ」と交代し、この度帰国したものである。

河村横須賀地方総監執行による帰

国行事は、神風防衛大臣政務官、吉田横須賀市長、日本船主協会関係者、河野自衛艦隊司令官ほか各部隊指揮官、隊員、家族など多数の出迎えがあり、横須賀水交會は土井会長ほか多くの会員が参加し、自衛艦旗小旗、水交會旗を掲げて出迎えた。

司令帰国報告、内閣総理大臣特別賞状の授与、大臣政務官訓示、自衛艦隊司令官訓示、来賓紹介などの行事は整齊と進められた。

両艦乗員の逞しく、凛々しい態度は、任務を完遂した誇りに満ちており、頼もしいものであった。

第10次隊は、32回、222隻の船舶を護衛し、安全に航行させた。公



表された資料によると、3月12日現在、第11次派遣海賊対処行動水上部

隊までの累計護衛実績は2千406隻に及んでおり、その成果は国際的にも高く評価され、関係船舶からは格別の感謝をされている。

海賊対処は、長期間にわたる任務遂行であり、厳しい環境条件のもとでの緊張は計り知れないことと考えます。

国際的な責務を果たし、国益に寄与した指揮官及び乗員各位に対して深甚の感謝と敬意を払います。短期間かと思いますが、休養され英気を養ってください。(本多副会長 記)

新型掃海艇「えのしま」就役

3月21日(水)、ユニバーサル造船(株)京浜事業所において平成20年度計画の中型掃海艇「えのしま」の引渡し及び自衛艦旗授与式が執り行われた。

この掃海艇は、従来の木造艇と異なり、船体にGFRPを使用した海上自衛隊初となる掃海艇である。排水量570トン、全長60メートル、幅10.1メートル、深さ4.5メートル、喫水2.5メートルであり従来の掃海艇に比し一回り大きな

っている。



式典は、多くの参列者を得て、1100開始され終始厳粛かつ整齐と行われた。会社側から防衛省への引渡しが行われ、「えのしま」マスト上のユニバーサル造船社旗が降下された後、河村克則横須賀地方総監から松岡孝泰艇長へ自衛艦旗が授与された。

引き続き音楽隊の奏でる軍艦マーチに乗って、自衛艦旗を左手に掲げた先任士官を先頭に乗組員総員が



乗艇した後甲板上に整列、最後に艇長が乗艇した。その後、大勢の参列者が見守る中、国歌「君が代」の演奏と共に自衛艦旗が艦尾旗竿に掲揚され、ここに自衛艦「えのしま」が誕生した。

出港式は、1315から行われ造船所側から乗員代表に花束贈呈が行われた後、松岡艇長から建造関係者及び参列者に対するお礼と「今後、乗員一同一丸となって練度を磨き、世界一の掃海艇「えのしま」を創ります。」との力強い挨拶の後、配備先である母港横須賀に向かって出港した。

我が、横須賀水交会からもそれぞれの立場で11名の会員が参列し「えのしま」の就役を祝うとともに武運長久を祈った。(小島幹事 記)

掃海艇「えのしま」横須賀初入港

新掃海艇「えのしま」(艇長・松岡孝泰3等海佐、基準排水量570トン)が3月21日(水)就役、横須賀港に初入港した。

同艇は、ユニバーサル造船株式会社京浜事業所で建造され、同日就役、

横須賀地方隊第41掃海隊に編入された。

横須賀音楽隊の行進曲演奏の中、「えのしま」は威風堂々と入港した。横須賀水交会では自衛艦旗・水交会旗などを打ち振り、横須賀初入港を歓迎するとともに乗員の激励を行った。

河村横須賀地方総監執行の入港歓迎行事は、吉田横須賀市長、江の島が所在する藤沢市長をはじめ各級部隊指揮官及び隊員、地元各界の代表、横須賀水交会などの防衛諸団体の出



迎えが行われた。横須賀市長の歓迎挨拶、初代艇長及び乗組員代表への花束贈呈のあと、初代艇長 松岡3佐から挨拶があり、その中で、「乗員

一同一致団結し、技量の向上を図り、日本一の、いや、世界一の掃海艇になることを誓います。」との心強い宣言がなされた。

「えのしま」は船体に初めてのFRPが採用され、耐用年数の延伸が図られた最新型掃海艇である。入港行事のあと艇内を展示され、本艇の特徴をよく披露していた。

今後、就役訓練等多忙になります。新掃海艇「えのしま」に栄光あれ！

(本多副会長 記)

試験艦「くりはま」

自衛艦旗返納行事に参加

4月6日(金)横須賀港船越岸壁において、試験艦「くりはま」(艦長・浅野伸一2佐)の自衛艦旗返納行事が、穏やかな春の日差しのもと、河村横須賀地方総監執行により行われた。

松下護衛艦隊司令官をはじめ各部隊指揮官等部隊関係者、横須賀市長、各官公庁関係者、歴代開発隊群司令等参加の中、横須賀水交会会員をは

じめとして各防衛団体等も多数参加し立派な式典となった。

行事は横須賀音楽隊の国家吹奏のもと、自衛艦旗降下に始まり、河村横須賀地方総監への自衛官旗返納、横須賀音楽隊の軍艦行進曲にあわせ「くりはま」乗員の退艦、総監訓示と厳粛かつ整齐と実施された。



河村総監の訓示では「くりはま」の功績を詳らかにするとともに、歴代艦長以下乗組員一同の努力が海上自衛隊の発展に多大な成果をもたらしたとして、海上自衛隊に対する貢献に謝意を表すとともに最後の乗組員の労をねぎらった。

試験艦「くりはま」は防衛庁技術研究本部の予算により建造され、昭

和55年4月8日に就役後、海上自衛隊に移管され、開発指導隊群に配属された。その後、平成14年には研究開発部隊の改編に伴い開発隊群に配属替となり、今日まで約32年間、海上自衛隊初の試験業務専用艦として活躍した。その間、魚雷、機雷、掃海機器等各種水中武器の技術試験、

実用試験、性能試験等において供試器材の運用、試験データの計測等の任務を遂行し、総航程30万5千186マイル、総航海時数3万9千850時間に及んだ。

ここに「くりはま」の立派な業績を称え、歴代艦長をはじめ乗組員のご尽力に深甚なる感謝と謝意を捧げたい。

横須賀水交会主催ゴルフコンペ

去る11月7日(月)、第23回横須賀水交会主催ゴルフコンペを千葉房総半島の鹿野山カントリー倶楽部にて開催しました。

当日は、11月とはいえ、晴れ、無風という絶好の天候に恵まれ、半袖にてプレイする人も見受けられました。

参加者は土井克彦会長以下52名と前回よりもやや少ない人数でしたが、陸自出身者1名、民間からの

女性の参加者が2名あり、華やかさにぎやかさの入り混じった楽しいプレイをすることができました。

競技は新ペリア方式で実施しています。ただし、同じ人が入賞しないように過去3回のコンペで1、2、3位に入賞した方は、新ペリア方式出てきたハンディキャップからそれぞれ30、20、10%を減点することにしています。この減点は3回コンペに参加しないと消えません。

今回は、道家一成氏が、グロス92、ハンディキャップ19、ネット72で優勝、2位には金田茂氏(106、33、73)、



3位 安藤恵子氏(87、13、74)という成績でした。2位の金田氏はまさに多くたたいたホールが、皆ハンディに加算されるという幸運(計算?)により、見事に副賞のパターを獲得して大喜びでした。また、3位の安藤さんは、会員が同伴した民間からの女性の参加者です。年(女性の年齢をいうと怒られますが)にもかかわらず、距離は出るし(ちなみにドラコンも獲得)、すばらしいスコアで皆びつくり出した。やはり、女性が参加すると華やかで良いという意見が出ていました。

ベストグロス賞には、シニアの部(65歳以上) 近藤義美氏がグロス70で、ジュニアの部(65歳未満)新田寛昭氏がグロス80で受賞しました。

優勝しました道家氏からのメッセージです。「一緒に廻っていた良かったお仲間と新ペリア方式に恵まれました、思いも掛かず優勝させていただきました。実力不相応で恥ずかしい限りです。もっとレベルアップして再度の優勝にトライしたいと思いません。」

水交会主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交

会会員のみならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければ幸いと思っています。またこのことから水交會に入会していただければこのコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方の声をかけて参加者を増やしていただくようご協力よろしくお願ひします。

(持永幹事 記)

『カード同好会のご案内』

カード同好会は、1月20日汐入の

総合福祉会館で新年会を兼ね年の活動を開始しました。土井会長にもご出席いただき参加者は最多の22名でした。本年も月2回のプレイを楽しん



でいきます。午前10時から前半戦を開始、昼食は新年会を兼ね、高田会員が「昨年東日本大震災に於ける現役隊員のご苦勞に感謝し、我々は隊員たちを激励して行きたい」と挨拶、続いて屠蘇代わりのビールで乾杯、本年の一層の活動を誓い懇談しました。同好会のお世話をしていただいている満尾幹事が暮れに体調を崩されて一同心配していましたが、見事に快復同好会に復帰され一層の喜びをもってスタートすることができました。

引き続き後半戦に移り体力勝負の6時間の闘いを経て成績は、優勝

金井章氏(得点58点)、第2位佐々木幹雄氏(得点35点)、第3位村上



すが子氏(得点28点)でした。

プレーでは果敢にスラムに挑む組、勢い余ってダウンする組と和氣藹々の一日を楽しみました。

(岩岡幹事 記)

カード同好会の開催日は、毎月第1土曜日及び第3水曜日の午後1時から5時、会場は汐入の横須賀総合福祉会館です。どなたでも気軽に覗きに來て下さい。

連絡先・岩岡 光

TEL 045・788・5313

『卓球部のご案内』

「楽しい卓球を始めませんか!」

横須賀水交會卓球部は、平成24年4月現在32名で、元自衛官、事務官等は10名、その他の部員は会社を定年退職された方や家庭婦人等で年齢は50歳代から70歳代がほとんどです。練習は、横須賀市北体育館(横須賀市夏島町2番地)で毎月第1及び第3土曜日の9時から12時まで、実施しています。

卓球部の方針は、初心者が多いことから「楽しい卓球をしよう」と部員全員楽しく明るい卓球に励んでおり、



大盛況です。部の雰囲気が良いためか退部する人はほとんどなく、毎回会員が楽しく参加しています。自衛隊OB以外の一般からの入部者は、当初は自衛隊や水交會のことも良く理解せずに入部して来るようですが、入部後は自衛隊や水交會活動も理解されて全員喜んで水交會に入会してくれています。また、卓球以外に年2回の食事会を行い、部員相互の親睦を深めており、それも楽しみなようになっていくようです。

最近では、卓球の国際試合もテレビで放映される機会も多く、卓球への関心も高くなっていますが、卓球は

心身ともに健康の源です。

水交會の皆様にもこの機会にぜひ入部して共に楽しみませんか。卓球部一同お待ちしております。

(山田会員 記)

連絡先：佐々木 清一郎

TEL 0468-88-6716

【海上自衛隊関連】

「幹部候補生学校で卒業式」

3月20日(火)、海上幕僚長臨席のもと、62期一般幹部候補生及び64期飛行幹部候補生過程の卒業式が実施され、海上自衛隊の未来を担う若い幹部が荒海に船出した。



(幹部候補生学校卒業式)

今回卒業したのは一般幹候補約20

0名(うち女性22名、タイ留学生1名)と飛行幹候補約60名で、3尉(大学院卒は2尉)に任官後、来賓・職員等に見送られ、江田内に停泊している練習艦等に乘艦した。

以後、一般幹候補卒業生は実習幹部として、練習艦隊(司令官 淵乃上海将補、練習艦「かしま」「しまゆき」、護衛艦「まつゆき」)に配属となり、内地巡航(5月中旬終了、晴海入港)に出発した。横須賀へは5月9日(水)入港の予定である。引き続き、約5ヶ月に及ぶ遠洋練習航海のため、5月中旬に晴海から鹿島立ちする。

また、飛行幹候補卒業生は、韓国及びシンガポールを訪問し、5月1日に呉帰港の日程で外洋練習航海に船出した。

「23年度就役艦艇」

(艦艇名、就役日、建造所、配備先)

1 護衛艦「あきづき」(新型)

3月14日、三菱長崎、佐世保

2 潜水艦「けんりゅう」(そうりゅう型)

3月16日、川重神戸、呉

3 掃海艇「えのしま」(新型)

3月21日、ユニ造京浜、横須賀

訃報

昨年11月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

日高 節夫(海兵71) 12月18日

木澤 光男(幹予43) 12月26日

奥平 隆三(舞教2) 12月30日

(本多副会長記)

新(編)入会員(11月〜3月)

次の方々横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。

(敬称略)

志村 誠一(有志) 田島 圭子(幹候

31) 津田 英俊(有志) 石森 光(有

志) 三尾 圭右(有志) 安齊 勉(幹候

28) 向井 一馬(幹候29) 村中 博文

(幹候24) 岩田 高明(幹候29) 廣田

八郎(有志) 大橋 亜男(有志) 野澤

豊(有志) 四元 和生(幹候30) 迫

幸一郎(幹候30) 後藤 大輔(幹候

30) 青木 伸(幹候30) 道上 正邦

(幹候29) 山本 正晴(遺族) 成田 元

男(有志) 中野 邦男(幹候30) 数野

謙一(幹候30) 清野 育朗(有志)

(高橋幹事記)

まだまだ現役！

あなたの体力と正義感をお役に立ててみませんか



自衛隊OB募集中



国際警備(株) 横須賀事務所
〒238-0041 横須賀市本町1-1-4
TEL・FAX 046-825-9921